

用語解説

東御廻り(あがりうまい)

琉球民族の祖といわれる〈アマミキヨ族〉が渡来し、住みついたと伝えられる知念・玉城の聖地を巡拝する神拝の行事。

首里城を中心に、大里・佐敷・知念・玉城の各間切を東四間切または東方(あがりかた)ということから、知念・玉城の拝所巡礼を〈東廻り〉と称したものである。〈今帰仁ヌブイ〉と同じく、沖縄中の各門中が拝む風習があった。久高島は麦の発祥地、同じく知念のウファカルと、玉城の受水走水(三穂田)は米の発祥地として国王及び聞得大君が参詣したことから、沖縄中の各門中も拝むようになったという。

御新下り(おあらおり)

聞得大君が最高神職に就任する儀式。首里における儀礼を終え、大里間切与那原(おおざとまじりよなばる)にあったいくつかの要所を経て、知念間切(ちねんまじり)にある斎場御嶽に入り、2日間に及び数々の儀式を執りおこなった。

聞得大君は、聖水を額に付ける「御水撫で(うびいなでい)」の儀式で神霊を授かり、神と同格になったといわれる。御仮屋(うかりや)が建てられたり道路が整備されたりと、その準備には数か月も及んだという。琉球王国で最大規模の行事。

聞得大君(きこえおおきみ)

聞得大君とは「最も名高い神女」という意味で、琉球の信仰における神女の最高位の呼称。聞得大君は、琉球王国最高位の権力者である国王と王国全土を霊的に守護するものとされた。そのため、国王の姉妹などおもに王族の女性が任命されている。

琉球全土の祝女(ノロ)の頂点に立つ存在であり、琉球最高の御嶽である斎場御嶽を掌管した。

初代(1470年)から15代(1875年)までの約400年余りにわたって、琉球王府の神事を担った。

久高島(くだかじま)

琉球王朝時代の神事がおこなわれた、神の島と呼ばれる島。

知念(ちねん)半島の東約5kmに位置し、周囲7.75kmの小さな島です。琉球開びやくの祖アマミキヨが天から降りて最初につくったとされている島で、五穀発祥の地、神の島と呼ばれています。また、歴代の琉球国王は久高島参詣を欠かすことはありませんでした。久高島には、12年に1度、午年に行なわれる祭事・イザイホーに代表されるように神秘的な祭事がそのまま残っているため、民俗的に貴重な島として注目されています。

緑の館・セーファ

入館料のお知らせ TEL/FAX: 098-949-1899

開館時間 9:00~18:00(最終入館17:30)

休日 2013年 6月9日~6月11日
11月3日~11月5日
2014年 5月29日~5月31日
11月22日~11月24日

入館料 大人200円(高校生以上)
小人100円(小・中学生)
団体 150円(団体20名以上)

設備・備品

- ・ロビー(展示室)
- ・研修室(会議室)
- ・事務室・展示パネル
- ・テレビ
- ・ビデオDVDプレイヤー



記念スタンプ

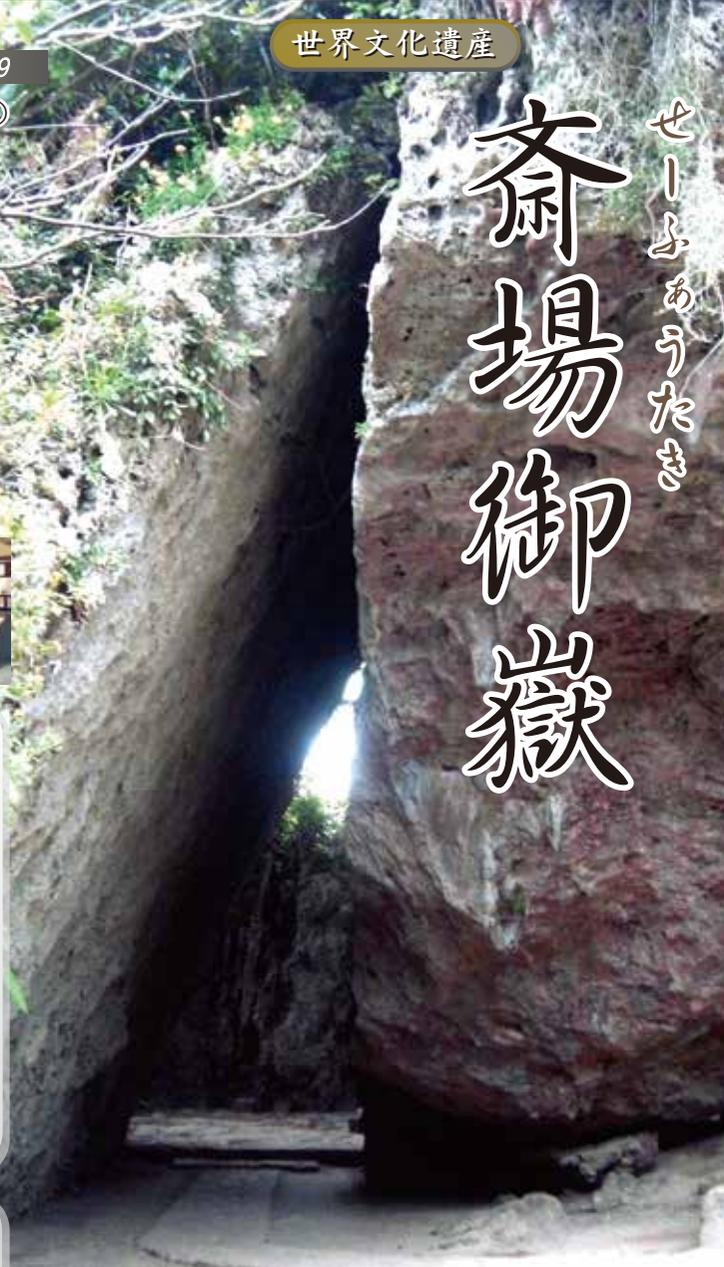
パワースポット"幸せの架け橋"

一般社団法人 南城市観光協会
TEL:098-948-4611
南城市 文化課
TEL:098-946-8990
南城市 観光・文化振興課
TEL:098-948-4660



Sêfa-utaki THE WORLD HERITAGE

世界文化遺産



琉球開びやく伝説にもあらわれる、琉球王国最高の聖地である"斎場御嶽"

南城市ハートロゴ



沖縄県 南城市

斎場御嶽とは

御嶽とは、南西諸島に広く分布している「聖地」の総称で、斎場御嶽は琉球開びやく伝説にもあらわれる、琉球王国最高の聖地です。

御嶽の中には六つのイビ(神域)がありますが、中でも大庫理・寄満・三庫理は、いずれも首里城内にある部屋と同じ名前をもっています。当時の首里城と斎場御嶽との深い関わりを示すものでしょう。

はるかなる琉球王国時代、国家的な祭事には聖なる白砂を「神の島」といわれる久高島からわざわざ運び入れ、それを御嶽全体に敷きつめました。その中でも、最も大きな行事が、聞得大君の就任式である「お新下り」でした。斎場御嶽は、琉球国王や聞得大君の聖地巡拝の行事を今に伝える「東御廻り」(アガリウマーイ)の参拝地として、現在も多くの人々から崇拝されています。

Sêfa-utaki

The exact date of the foundation of Sêfa-utaki is not clear, but the official chronicle of the Ryukyu's Kingdom, titled Chûzan Seikan, says that it was one of the ritual stages created by Amamiku, the god who founded Ryukyu. In the early 15th century Sêfa-utaki had already established itself as an indispensable sanctuary in the Ryukyu kingdom: the Ryukyuan king made pilgrimages to Sêfa-utaki and the ritual of Oaraori was performed by the kikoeôkimi highest priestess.

Lush sub-tropical forests and rocks in various picturesque shapes produce an awe-inspiring, forbidding atmosphere around Sêfa-utaki.



池



④ シキヨダユルとアマダユルの壺
二本の鍾乳石から滴り落ちる「聖なる水」を受けるため、二つの壺が据え置かれています。



⑤ 三庫理(サングーイ)
二本の鍾乳石と、三角形の空間の突き当たり部分は、それぞれが拝所となっています。また、東側には海の彼方に久高島を望むことができます。



斎場御嶽出土品(国指定重要文化財)

斎場御嶽からは、中世から近世を中心とする様々な資料が出土しました。

その中でも、特に注目されたのが金製を含む勾玉や、中国青磁器・銭貨を組み合わせた一括資料です。御嶽という聖地の、さらに気高い場所より出土したその状況より、当時の琉球信仰を考えるうえで極めて貴重な資料といえましょう。

発掘調査で確認された三庫理(サングーイ)の排水溝



発掘調査の結果、様々な遺構が確認できました。石畳の参道の下をくぐりぬける排水溝や、祀り場を清める白砂の堆積などがそれです。

その他、重要な儀式の際にこの場所を整備していった様子などがわかってきました。



③ 寄満(クインチ)
大庫理の岩をぐるりとまわった反対側にあります。寄満とは、王府用語で「台所」を意味しますが、貿易の盛んであった当時の琉球では、世界中から交易品の集まる「豊穡の満ち満ちた所」と解釈されています。



② 大庫理(ウフグーイ)
御門口から登っていくと左手に見える最初の拝所です。大広間や一番座という意味を持っており、前面には、磚(せん)の敷かれた祈りの場(ウナー)があります。



① 御門口(ウジョウグチ)
御嶽内へ入る参道の入口です。右側には、六つの香炉が据え置かれていますが、これは内部にある拝所の数を示すものです。



⑥ ウローカー
※現在入れません。



緑の館



駐車場



知念岬公園 ↓

がんじゅう駅・南城 (幸せの架け橋)



国道331号

至 与那原町 →

← 至 八重瀬町

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」
(Gusuku Sites and Related Properties of the Kingdom of Ryukyu)